**校長　　吉岡　　宏**

**平成29年度　学校経営計画及び学校評価**

１　めざす学校像

|  |
| --- |
| **【めざす学校像】　　　　～　日本一の高校をめざして　～**  ○大阪を代表する公立高校として、日本中の高校のモデルとなり、府民から信頼される学校。  ○日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。   * 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取組む学校。   **【生徒に育みたい力】**   * 自由闊達･質実剛健･文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事･部活動･探究活動等に積極的に取り組む意欲。（意欲） * 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力･判断力･表現力と、それらに基づく行動力。（行動力） * 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。（志） * 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。（優しさ）   ○これからの社会を創り出していく本校生が、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質･能力  （「知識･技能」に加え「思考力･判断力･表現力」と「主体性･多様性･協働性」を含む学力） |

２　中期的目標

|  |
| --- |
| １　学力の育成  （１）天高スタンダードに基づいた高い学力、および中教審答申（H28.12.21）で確認された「知識･技能」に加え「思考力･判断力･表現力」と「主体性･多様性･協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、中教審答申に示された新しい入試制度への対応を研究する。  ア　授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均を平成31年度２回目には3.45以上をめざす（H28年度は４点満点で3.45）。  イ　文武両道をさらに追求する（部加入率95％以上を維持）。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、（平成28年度 70%）平成28年度に達成した70%以上を平成31年度まで維持する。  ウ　グループ活動、ペアワーク、ディベート、プレゼンテーションなど、アクティブラーニング型の指導方法の全教科導入が平成28年度に完了し、「確かな学力」を生徒に身につけさせる下地ができた。平成31年度まで、アクティブラーニングに工夫を重ね、より洗練された指導法を開発し共有する。  エ　平成32年度入試から、大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の成績に加え、『小論文、面接、集団討論、プレゼンテーション、調査書、活動報告書、大学入学者希望理由書や学修計画書、資格･検定試験などの成績、各種大会等での活動や顕彰の記録、その他受検者のこれまでの努力を証明する資料』が大学入学者選抜の材料になることに対応し、情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。  オ　中教審答申には、平成32年度以降の入試の多元的な評価の方法として「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。本校では、「ルーブリック」の全教科導入が平成28年度に完了し、多面的な評価を実施する下地ができた。平成31年度まで、「パフォーマンス評価」に工夫を重ね、より洗練された評価法を開発し共有する。  カ　TOEFLの授業や国際教育の機会を通じて４技能を備えた英語力を身に着けさせる。  （２）学習指導の充実に取り組む  ア　天高育成プログラムを基に、各教科で３年間を見通した学力育成プログラムを展開する。また、各教科の自主教材のさらなる充実を図る。  イ　研究授業、公開授業を充実（教科の枠を超えた授業研究の実施）し、互いに見学する回数を１人平均５回以上にする（平成28年度は6.1回）  ウ　４技能を備えた英語力を生徒に身に着けさせるため、TOEFLを活用した指導法を確立し、全英語科教員が担当できる体制を整備する。  エ 「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など、さらに洗練された評価法を開発し共有する。  （３）探究活動の充実、自学自習の習慣づけ  ア　平成29年度から平成31年度までの本校の最大の挑戦は、日本でも極めて少ない文理学科各学年360人全員が課題研究に取り組むという内容の「カリキュラム・マネジメント」の実現である。従来の理系および文系の課題研究に取り組む160人に加え、ビッグデータ研究班約100人とデジタルコンテンツ制作班約100人を新たに立ち上げ、全教科教員で支援する体制を実現する。これは平成34年度から始まる新学習指導要領の新科目「理数探究」の日本中のモデルとなる取組となる。  イ　桃陰セミナーの活用を一層推奨する。　→　土曜日は学校で自学自習の習慣づけ  ウ　部学習日を充実させる。　→　同じクラブ内での相互指導と学習  ２　グローバル社会に貢献できる人材の育成  （１）グローバルリーダーの育成  ア　英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内での国際活動を通して国際教育を充実させ、全ての生徒に国際感覚を身に着けさせる。  イ　アジア各国との交流を発展させ、①アジア理解とアジア研究、②アジアの若者との英語による交流、③文系の国際研究活動の機会として充実させる。  ウ　科学に秀でた人材の育成をめざし、ＳＳＨの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。  （２）生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。  ア　教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な原因でつまずきを感じる生徒を支援する。  イ　平成19年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制整備とインクルーシブ教育推進を行う。平成27年６月に改定を加えた「教育相談活動確認事項」を効果的に運用するとともに継続的に改訂を加えていく。発達障がいに関する共通理解を深める。  （３）京都大学･大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきＧＬＨＳの事務局校として各大学との連携を進める。  ３　中堅、若手教員の資質の向上  ア　新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。  イ　若手教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身に着けさせる。  ウ　予備校等外部教育機関のベテラン教員や広報担当者を招聘し、授業展開に主眼を置いた研修会を開催する。 |

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

|  |  |
| --- | --- |
| 学校教育自己診断の結果と分析［平成２９年１０月実施分］ | 学校協議会からの意見 |
| **保護者による回答**  有効回答数　878／1077（１年319・２年267・３年292　 回収率82% ）  「非常にそう思う」と「そう思う」という肯定的な意見が85％を超える項目が全24項目中17項目で昨年度と同じであるが、19項目で+1～+5上昇している。また、12項目(昨年7項目)については90％以上の肯定的回答を得ており、中でも「部活動が活発である」95％、「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」94％と高く、本校の教育方針が支持されているものと思われる。「子どもの心身の健康について気軽に先生に相談できる。」は77％から83％に+5増えており、本校の教育相談体制に信頼を頂いていると思われる。さらに回収率が80％を超えており、本校の教育に対する関心の高さが伺える。  **生徒による回答**  有効回答数1050／1077（1年358・2年348・3年343 回収率97%　）  　「学校での友人関係はうまくいっている」95％、「部活動に参加している」100％、その他肯定的な回答が85％を超える項目が全37項目中21項目あり昨年度同様、大多数の生徒が本校での学校生活に満足しているものと思われる。「清掃活動が行き届いている」が-5で48％、「課題研究は有意義である」が-7で79％と下がっている。清掃活動については昨年度から保健部を中心に力を入れているが今まで以上に教員による監督を強化するなど対策を施していきたい。課題研究については今年度から2年生360名全員での取り組みが始まり、試行錯誤しながら進行していることが影響していると思われる。来年度に向けて、「課題研究委員会」を立ち上げより良いものとなるよう検討中である。  **教員による回答**  有効回答数64／67（ 回収率96% ）  　昨年度より24項目において肯定的な回答が増えており、中でも「適性・能力に応じた人事や校務分掌分担がなされている」は+10で71％の肯定的な回答を得た。「清掃活動」についても+14で66％と上昇し保健部を中心とした取り組みが評価されたが生徒の清掃活動に対する肯定的評価は減少しており、このギャップを埋める更なる取り組みが必要である。また、「災害時等の役割分担・体制が明確化されている」も+11で95％と上昇し、周知が進んでいると思われる。 | **第１回（６/24）**  ・行事等の学校の取組みの多さに驚いている｡時間外勤務など教員の負担を危惧する｡  ・学校のイベントへの参加が学校関係者だけにならないように近隣地域などにもう少し発信することも必要ではないか。  ・天王寺高校のよき伝統を新たに着任される教員に引き継いでほしい。また、全ての生徒が「高校が天王寺高校でよかった」と思える学校であり続けてほしい。  **第２回（11/18）**  ・多くの行事・イベントがあるなかで生徒の金銭的負担が増え、財政的支援の有無による格差が生じていないか。同窓会など学校支援組織との連携を深め、生徒への予算の還元方法を考えてほしい。  ・塾、予備校の利用率が上昇していることについて、学校の授業が十分に入試改革にも対応していることや学校の授業の大切さを、生徒とともに保護者にも伝える必要がある。  ・校外行事に参加して、生徒が賢いとともに教員の指導が丁寧で細かいと感じた。しかしながら、リーダーを養成する観点からはスケールが少し小さいのではないか。生徒自身に考えさせる幅を持たせるなど、安全性に配慮しながらも改善を期待する。  ・トイレの臭いなど設備老朽化は他校でも問題になっているが、学校の抱える問題を生徒たちに解決を考えさせてはどうか。主体的に問題に取組み自ら解決策を探る教育をどう提示するかがこれからは求められる。  **第３回（１/27）**  ・公費による災害備蓄に限界があるなかで、災害発生時には数千人が天王寺高校に避難してくることも考えられる。暖房対策も必要だ。地域からの訓練受け入れも検討すべきではないか。  ・防災訓練と同時に不審者対策や防犯訓練も怠ってはならない。また、ＳＮＳなどネット上の個人情報の扱いについて、生徒たちの意識は非常に甘い。「自分が加害者にも被害者にもなりうる」という意識に基づいた学習機会の提供を引き続き行ってほしい。学校の危機管理の観点から、できうる対策は万全にしてほしい。  ・教育活動の一環としての清掃活動は良いが、将来的には設備の更新を考えてほしい。生徒に学校のことを考えさせ、自分たちで改善・解決させる姿勢を養うことも大切。  ・ノークラブデーの取組みにおいて平日を部活動の休みにしている場合、保護者には伝わりにくい。周知の対策とともに、取組みの徹底をお願いする。 |

３　本年度の取組内容及び自己評価

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 中期的  目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
| １　学力の育成 | (１)天高スタンダー  ドの実施と検証  を行い各教科ご  との到達度を高  める。  　　中教審答申に示  された「確かな  学力」を生徒に  身に着けさせ  る。また、新し  い入試制度を  研究する。 | (１)  ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、  整備していく。授業アンケートの結果を高い  レベルで維持する。  イ・文武両道をさらに追求する。学校教育自己診  断においても部活動との両立ができている  生徒の割合を向上させる。  ウ・グループ活動、ペアワーク、ディベート、プ  レゼンテーションなど、アクティブラーニン  グ型の指導方法を国語、社会、数学、理科、  英語の各教科で発展させる。（保体、芸術、  家庭、情報の実技教科はすでにアクティブラ  ーニング教科である）  エ・ 新しい入試制度に関係する研修会や説明会  に参加し、校内での情報共有を行い、可能  な範囲で日々の授業等に反映させる。  オ・ パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ  　　 評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」  など、多元的な評価の方法を徐々に生徒に  示す。  カ．４技能を備えた英語力を身に着けさせる。  キ． 科学オリンピック対策講座を開催する。科  学オリンピックへの参加者120名以上を維  持する。 | (１)  ア・天高スタンダードの改  訂を継続する。授業ア  ンケートの２回目全体  平均3.45を維持する。  （H28年度3.45）  イ・部加入率95％以上を  維持（H28年度100％）。  学校教育自己診断にお  いて部活動との両立が  できている生徒70％を  維持する（H28年度  70％）  ウ・国語、社会、数学、理  科、英語の各教科で少  なくとも１回以上、平  成28年度に実施したア  クティブラーニング型  の授業の発展形の展開  を試みる。（全教科１回  以上）  エ．新しい入試制度に関係  する研修会や説明会で  の情報を職員会議で共  有する。（１回以上）  オ．平成28年度に実施した「ルーブリック評価」を  改良する。（全教科で実  施）  カ．TOEFLiBT CHALLENGE　80点以上 ５人、60点以上  15人．  キ．科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者150名以上を維持し、２名以上の受賞者を出す。  H25　110名　内、受賞２  　H26 149名　内、受賞５  　H27　121名　内、受賞５  　H28 232名 内、受賞７ | (１)  ア　全体平均　１回目3.46　２回目3.51（○）  イ　部加入率100％（学校教育自己診断）  　　部活動との両立ができている71％（○）  ウ　各教科でのアクティブラーニング導入100％  　　各教員のアクティブラーニング導入 98％（○）  エ　職員会議において、進路指導主事から適宜情報提供を行うとともに、外部講師を招いて教員研修実施。（○）  オ　各教科でのルーブリック活用100％  　　各教員のルーブリック活用80％（○）  カ　80点以上3人  60点以上12人［受検64名］（△）  キ　科学オリンピック参加263名。受賞者12名。（○）  H25　110名　内、受賞2  　H26 149名　内、受賞5  H27　121名　内、受賞5  H28　232名　内、受賞7  H29　263名　内、受賞12 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| １　学力の育成 | (２)学習指導の充実  に取り組む。 | (２)  ア・研究授業、公開授業の充実  イ・技能を備えた英語力を生徒に身に着けさせる。  ウ・パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」、達成度の基準を示す「ルーブリック」など多元的な評価法の研究と実践を継続する。 | (２)  ア・授業見学（５回以上）  イ・TOEFLに関する指導法の確立  ウ・多面的な評価に関する研修や勉強会に参加する（１回以上）。 | (２)  ア　授業見学数　平均5.2回（○）  イ　TOEFLに関する指導とともに４技能の指導の充実が進んでおり、他校からの見学もあった。（○）  ウ　ＳＳＨ近畿圏８校によるルーブリック研究会にＳＳＨ主担者が参加し、研究協議を行った。　（○） |
| (３)探究活動の充  実、自学自習の  習慣づけ | (３)  ア・「創知（総）」「創知」における全教科教員による新たな指導体制を確立する。従来の文系および理系課題研究に加え、ビッグデータ活用班、デジタルコンテンツ制作班の活動を効果的に展開する。  　　研究倫理の指導を盛り込む。  イ・桃陰セミナー、部学習日を充実させる（土曜  日を活用した自習活動）。  　　土曜日の半日を「部学習日」として部単位で  　　自学自習を継続し推奨する。  ウ・全学年、夏期休業中に勉強合宿を実施し、さ  らなる学習意欲を増加させるとともに自己  の将来を展望させる。  エ．大学進学実績の維持 | (３)  ア．「創知（総）」「創知」を  指導する教員を25名以  上配置する講座編成を  行う。２年生徒360名  が課題研究の成果物を  完成する。  イ・桃陰セミナー参加者数  の維持。１日平均250名以上（H28年度１日平均274名）を維持する。  ・部学習日の参加者数の総計500名以上をめざす。  ウ・全学年の勉強合宿を例  年通り150名超の規模  で開催する。  　　H28 　１年174名  　　　　　２年223名  　　　　　３年202名  エ．センターテスト５教科  受検者数学年の95％以  上を維持。（H28年入試  95％）国公立大学合格  者現浪合わせて270人  以上。  （H28年入試（264）人） | (３)  ア　２年生文理学科360名全員による課題研究に対し、教員28名による全クラス同時展開の「創知」を実施。ビッグデータ、コンテンツ分野を含む約140班が課題研究に現在取り組み、校内における発表会を実施した。（○）  イ　桃陰セミナー参加者数１日平均260名  　　部学習日参加者数637名（○）  ウ　勉強合宿参加者数（△）  　　H29 １年184名  　　　　 ２年109名  　　　　 ３年153名    エ　センターテスト５教科受検者数94％  　国公立大学合格者現浪合わせて323人（○） |
| ２　グローバル社会に貢献できる人材の育成 | (１)グローバルリー  ダーの育成 | (１)  ア・海外研修や国際行事など、国際感覚を身に着ける機会を充実させる。本校で初めての海外研修旅行（台湾）を成功させる。派遣型研修として、ケンブリッジ研修、オーストラリア研修、台湾研修を実施する。受入型交流として、国立武陵高級中学（４月）、台北市立第一女子（５月）、イギリスグラマースクール（７月）、Road To GL（国内イングリッシュキャンプ８月）、オーストラリア・ホランドパーク高校（12月）、韓国慶南女子高校（１月）との交流を実施する。  イ・国際教育活動において、交流相手校生徒との自由交流時間を最大限確保し、中身の濃いプログラムを確立する。  ウ・ＳＳＨの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。  エ・天高アカデメイアを継続実施する。 | (１)  ア・各行事の事後アンケートにおける満足度90％以上とする。  イ・各行事における交流相  手校生徒との自由交流  時間の確保を検証す  る。  ウ・大工大梅田キャンパス  で実施する大阪サイエ  ンスデイを成功させ  る。  エ・天高アカデメイアの満  足度80％以上を維持す  る。 | (１)  ア　派遣型海外研修参加者数　ケンブリッジ研修3名、オーストラリア研修6名、台湾研修15名合計24名が参加。受入れ型交流として、台湾から武陵高級中学31名、台北市立第一女子高級中学47名、英国Townley Grammar School 29名、ホランドパーク高校14名、韓国慶南女子高校10名との交流を実施した。Road To GLは今年度は外部講師による国内留学研修とした。学校教育自己診断におけるSSH、GL事業の満足度は90%であった。（○）  イ　交流に際しては、本校各クラスから国際交流委員を募り、自由交流内容の企画運営を任せた結果、自主的に工夫して豊かな交流を実現できた。（○）  ウ　大工大での大阪サイエンスデイは約1500名の参加者を得て成功裡に終わった。より充実した研究発表大会開催に向け、次年度の内容を検討している。（○）  エ　天高アカデメイアの満足度82％（○） |
| (２)生徒理解の促進  と安心な学校  作りのための  体制の促進 | (２)  ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させる。生徒情報の共有システムを確立する。  イ・改訂した「教育相談活動確認事項」を効果的に運用する。支援コーディネーターと養護教諭を中心にチームで対応する体制を確立する。 | (２)  ア・研修等に２回以上参加する。そのスキルを教員間で共有する。  イ・合理的配慮をおこなうためのノウハウと実践結果を積み上げていく。 | (２)  ア　支援コーディネーターが２回の教育相談関連研修に参加した。また、臨床心理士による思春期の子どものサポートについての職員研修兼PTA保護者研修を実施した。H29.12.4（○）  イ　合理的配慮の考え方を踏まえ、配慮を要する生徒の個別の教育支援計画・指導計画の実践を重ねた。（○） |
| (３) 京都大学･大阪  大学との連携 | (３)　京都大学、大阪大学との連携協定に基づき  　　両大学と連携を維持する。 | (３)　京大キャンパスガイド、阪大ツアー等を継続する | (３)　京都大学キャンパスガイドH29.11.5（117名）、大阪大学ツアーH29.11.25（124名）を実施した。（○） |
| ３　中堅、若手教員の資質の向上 | ・若手教員の育成  ・中堅職員の教育力向上 | ア．桃陰塾（若手教員の勉強会）→首席を世話役として月１回自主的勉強会（先輩教員の講演会、ワークショップなど）の実施  年間通して、若手教員間での授業研究を促進  する。  イ．教科指導力の向上をめざして大学と連携し、大学の専門知識をもった教授等から指導を頂く機会を作る。  ウ．本校の文武両道の理解推進。天高育成プログラムの理解の増進。 | ア・新採用の教員については相互の授業見学を1人５回以上行う。  イ・新規採用者全員に公開研究授業と研究協議会を１回以上実施させる。  ウ・学校行事に対する意識の改善。学校教育自己診断の結果、昨年度のマイナス項目を改善する。 | ア　新採用の２人の教員は、相互の授業見学を１０回以上行い、授業力を向上させた。（○）  イ　公開授業と研究協議会をそれぞれ１回ずつ実施した。（○）  ウ　学校行事の意義や運営についての議論を深め、意識の改善を図った。教職員学校教育自己診断で、「教育活動は…リーダーシップの養成に役立っている」98%、「教育目標を意識している」90%、「学校行事の多いことは本校の魅力」92%と昨年を上回る結果となった。（○） |